



今年度の食害状況と対策の効果

前号では今年度の食害防止対策の取組内容をご報告しました。対策を実施するのは、5月初旬から6月中旬までの、デントコーンの種をまいてから芽がある程度伸びるまでの約1ヶ月間です。今号では、過去と比較できる下久著呂地区の状況や対策の効果をご報告します。

今年度は、地区内の1日当たりの最多確認羽数が26羽と、この4年間で最少でした。最も多かった令和5年度は45羽が確認されています。地区内に居つくタンチョウが少なかったことから、食害が発生しにくい状況にあったと言えます。

同じデントコーン畑（以降、畑）でも畑の状況によって食害の多少が変わります。播種前の畑では、当然食害は発生しません。播種後は、マルチ畑ではビニールの両端に種がまかれており、それを学習したタンチョウがそのあたりを執拗につつき、食害を引き起こします。一方、露地まきの畑では、どこに種があるかわからず、タンチョウが侵入しても食害は発生しにくくなります。播種後10日程度で発芽すると、芽の長さが15cmを超えるくらいまでの15日程度は、芽を抜いて根っこについている種を食べ、以降はだんだんと芽を抜かなくなります。つまり、マルチでは播種してから25日間、露地まきでは発芽してから15日間で食害の発生しやすい時期と言えます。下表のとおり、今年度は全体でも侵入は少なく、特に食害の発生しやすい時期はこの4年間で最少でした。



発芽前につつかれた跡（マルチ畑）

表 畑の播種・発芽状況ごとの侵入回数と延べ侵入羽数（令和5～8年度）

	回 数				延べ侵入羽数			
	R8	R7	R6	R5	R8	R7	R6	R5
発芽後15日以内	79	99	111	234	157	188	240	963
マルチ畑播種後発芽前	45	70	123	146	93	232	918	677
食害が発生しやすい時期計	124	169	234	380	250	420	1,158	1,640
発芽後16日以上	18	6	5	8	22	7	9	30
露地畑播種後発芽前	40	29	31	20	75	45	68	96
食害が発生しにくい時期計	58	35	36	28	97	52	77	126
播種前（食害の発生しない時期）	72	45	38	53	174	143	207	232
計	254	249	308	461	521	615	1,442	1,998

このように今年度は地区内に居つく羽数が少なく、また食害の発生しやすい時期の畑への侵入が少なかったことから、そもそも食害が発生しにくい状況にあったと言えます。この結果は、食べるとまずく感じる“忌避剤”の効果があったのかもしれません。毎年追い払いが行われるこの地区をタンチョウが避けた面もあったと思いたいです。

今年度も食害の発生しやすい時期はすべて、その他の時期や畑の近くにいた場合もなるべく追い払いを実施しました。これらの効果で、タンチョウがこの地区をさらに敬遠してくれればしめたものです。“継続は力なり”を信じて、次年度も多くのみなさんと力を合わせて、タンチョウと酪農との共生に寄与したいものです。